

事務事業評価シート 平成 27 年度事後評価・決算

平成 29 年 2 月 22 日時点

事務事業名				コード	52900	特定保健指導事業	予算科目	会計	款	項	目	事業種別	国民健康保険班
基本施策				5	保健の充実	根拠法令	高齢者の医療の確保に関する法律	8	1	1		☒ 主な事業	
施策の展開				11	健康づくりの推進	戦略事業	52	特定保健指導事業				☐ 国土強靱化地域計画	
施策の展開						戦略事業						☐ 新市建設計画	
												☐ 定住自立圏構想	
												☐ 主要事業	

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間		② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない	
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 20 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで		特定保健指導とは、国保特定健診(年1回実施:身体計測、腹囲測定、尿検査、血圧測定、血液検査、診察)の結果にて、腹囲(BMI)が基準値以上で血圧・脂質・血糖が基準値以上の方に保健指導を行う事業。 【内容】保健師、管理栄養士が、生活習慣を確認しながら、栄養・運動等の健康づくり支援を行います。個別またはグループで保健指導を行い、初回面接で生活習慣改善目標をたて、電話やメール等で随時相談をしながら6か月間継続します。基準によって動機づけ支援、積極的支援の2タイプの指導があります。	
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状		④ 事務事業に関する課題・環境の変化	
国の医療制度改革として、医療保険者による健康及び保健指導の充実を図る観点から、特定健康診査、特定保健指導の実施が義務付けられた。26年度から非常勤職員による特定保健指導対象者への戸別訪問を強化。		特定保健指導対象者の基準は変更なし。 さらに、健康日本21の目標をふまえ、非肥満者に対する保健指導も含め対象者に応じた保健指導を実地し、生活習慣病予防に取り組むことがすすめられる。	
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等			
		特定保健指導の利用者からは、満足度が高く、特定保健指導利用者は、利用しない者より翌年の検査結果にて改善がみられた。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(27年度の決算)		単位:千円	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(予算)
1.賃金	906	特定保健指導従事者非常勤雇用	402	592	974	906	837
2.需用費	394	保健指導教材等消耗品費、訪問指導用等燃料費	505	713	977	394	347
3.役務費	376	保健指導用通知の通信運搬費	248	150	295	376	544
4.委託料	3,327	生活習慣病予防教室委託料	0	903	854	3,327	7,222
5.その他	19	研修会負担金、旅費	11	11	2	19	25
② 特定財源の内訳(27年度の決算)		単位:千円	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(予算)
1.国庫支出金	1,639	特定健康診査事業費等国庫負担金	389	790	988	1,639	3,158
2.都道府県支出金	1,674	特定健康診査事業費等県負担金	389	790	1,034	1,674	1,835
3.地方債	0						0
4.その他	0						78
			388	789	1,080	1,709	3,904

前年度増減理由	旭市国民健康保険保健事業実施計画(データヘルス計画)策定支援業務委託をしたため
---------	---

従事職員数 常時 2人 最大 5人 × 50日 = 延べ 250人

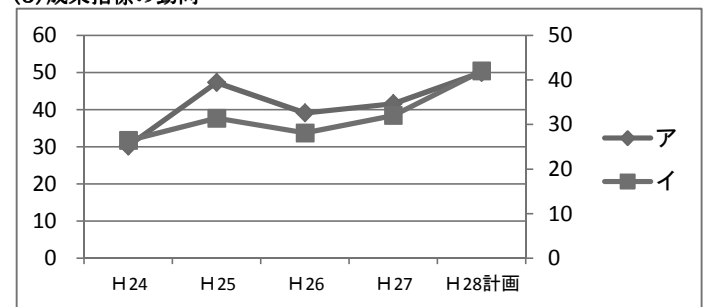
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
	27年度実績(27年度に行った主な活動) 特定保健指導個別支援 ※保健師にプレ保健指導の実施 特定保健指導の未利用者訪問および継続支援 生活習慣病予防のための健康教室「健康塾」 ・前年度の未利用者に個別アドバイス票を送付し、特定保健指導の利用勧奨を行う。 ・特定保健指導未利用者の健康状態を分析し、旭市国民健康保険保健事業実施計画(データヘルス計画)へ反映させる。		ア 特定保健指導個別支援開催日数	日	32	28	19	22	22
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	イ 特定保健指導訪問支援日数	日	90	101	160	121	135
	対象意図 保健指導レベルが積極的支援及び動機づけ支援の方(メタボリックシンドローム該当者及び予備群者) 特定保健指導対象者が保健指導に参加し、生活習慣(食事・運動・喫煙)が改善できる。		④ 成果指標名	単位	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(計画)
対象意図			ア 特定保健指導の利用率(指導を受けた人数/指導対象者)	%	30.2	47.3	39.1	41.6	50.0
			イ 特定保健指導の実施率(指導を終了した人数/指導対象者)	%	26.4	31.4	28.1	32.0	42.0

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果		
施策貢献度	成果向上余地	成果向上の程度	評価結果	成果優先度	コスト比率
大きい	②		①		
普通			②		
小さい			③		
			④⑤		
			⑥		
			⑦⑧		
			⑨		

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

評価内容	① 進捗状況	☐ 完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難				
	【コメント】 (停滞・実施困難の場合、その理由)					
	② 成果の状況	成果指標ア	成果指標イ	成果指標のタイプ	数値増=成果向上 ☒ 向上 ☐ 横ばい ☐ 低下	比較
	【コメント】 (低下の場合、その理由)					成果動向
③ 今年度取組事項 (今年度新たに取り組む事項について記載)	時期	内容				今後の方向性
	28年5月～29年3月	医療機関にて特定健診を受診した方について、これまで直営で保健指導(職員・臨時職員)をしていたが、今年度より業者に委託し、平日夕方、土日の保健指導を強化する。				☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 見直し ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ その他 ()